

発達障害児心理検査法

特別支援教育講座 吉松靖文

1. 授業の概観

本授業は、発達障害児や知的障害児の特性を評価し、教育支援に活かす実践力を身につける授業である。発達検査の理論に加え、各種発達検査の特徴や結果の解釈について学校現場で必要とされる基礎的な内容を身につけることを目的とした。

本学教員3名に加え、実地指導講師2名によるオムニバス授業である。

取り上げた検査は、新版 K 式，田中ビネー，K-ABC，WISC-III，S-M 社会生活能力検査，PVT-R，ことばのテストえほん，構音検査であった。

検査毎に特徴についての解説，受講生同士による検査の実習，結果の解釈についての解説及び実習を行った。

2. 授業評価法

無記名による7点尺度ないし4点尺度のマークシート及び記述式のアンケートを行った。7点尺度のアンケートは、従来、吉松が他の授業でも用いているアンケート項目である。これらの項目については、評点をつけた理由についての自由記述の欄を設けていた。今回は、それに加え、4点尺度の DP に関するアンケート項目も実施した。各項目については図1、2の通りであった。

本アンケートが受講生の成績に一切影響せず、授業に対する自由な回答を保証するために、本学の成績提出締め切り日を過ぎた2月25日(金)とした。

3. 授業評価結果

10名の受講生から解答があった。自由な回答を保証するために設定した提出締め切り日が本学の前期試験日程と重なっていたため提出先として指定した教員研究室がある建物に入棟できなかったため提出率が低い結果になったと思われる。この点、次回は改善の必要がある。

アンケート結果は、図1及び図2の通りであった。7点尺度のアンケートでは、アンケート項目

1の教材の提示、資料の配付の適切性及び教室設備についてそれぞれ1名が「どちらとも言えない」と回答していたが、それら以外のすべての項目においてすべての回答者が「ややそう思う」「そう思う」「全くそう思う」という肯定的な評価をしていた。

特にアンケート項目6の本授業の受講生にとっての有用性は、半数以上の受講生が「全くそう思う」と回答しており、非常に高い評価を得ることができた。一方で、アンケート項目5及び7の授業の満足度や理解度については、半数以上が「ややそう思う」と回答しており、肯定的な評価ではあるものの、さらなる改善が必要と思われた。

各項目の評定理由の記述については1項目以上について記述していたものは2名しかいなかったため、質的な検討は困難であったが、一部の授業が大学外で実施したため移動が大変であったこと、取り上げている検査の数が多い一方で、それぞれの検査を並列して比較する内容の授業を行っていなかったため「ごちゃごちゃ」したことが書かれていた。大学外への移動については、実地指導講師の職務の都合上改善が難しいところがあるが、各検査を並列的に比較し系統的な理解を図る授業改善の必要性が明らかとなった。

一方、DP についてのアンケートではすべての回答者が全項目において「どちらかと言えば向上した」「向上した」のいずれかを回答していた。特にアンケート項目8・9・11の知識・理解及び思考・判断、関心・意欲では、半数以上の受講生が「向上した」と回答しており、本授業が DP にそった高い成果を上げていることが示唆された。

4. まとめ

今回の授業評価では、回答者数が少なかったことが今回の授業評価の問題点であった。受講者に自由な回答を保証するためには、成績評価への影響がないことを担保することが重要と思われるが、入試日程に重なり回答の権利を保障できなかった点が問題であった。この点については、日程についての配慮を行いたい。また、回答率を向上させるための工夫も行いたい。

しかしながら、本授業に関するアンケート結果からは、受講生から非常に高い評価を得ることができた。特に DP に関するアンケートでは、すべての項目において肯定的な評価を得ることができ、本学が掲げる教育目標を達成できていることが示唆された。

一方で、授業全体の系統性について改善すべき点があることも示唆された。この点については、次年度の授業改善にいかしたい。

